

Crescendo

2025.10
vol.160

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど



県民栄誉賞受賞記念 ヴァイオリン・リサイタル

徳永二男 「音楽の贈り物」

8月30日(土)、約1500人のお客さまが静かに聴き入る
アイザックスターンホール。

「宮崎での思い出を走馬灯のように振り返りながら、
29年支えていただいた皆さまへのお礼の気持ちを込めました」と語った徳永二男さん。
その音色に込められた感謝の想いは会場に集った人々の心にやさしく響き、
あたたかな時間が流れました。

Menagerie Brass Quintet



高瀬 新太郎 (トロンボーン) 重井 吉彦 (トランペット) 鶴田 麻記 (トランペット) 鈴木 優 (ホルン) 田村 優弥 (チューバ)

メナジェリー・ブラス・クインテット

日本の若きトッププレイヤーたちで結成された「メナジェリー・ブラス・クインテット」。金管楽器のプレイヤーにとって登竜門とされている『第10回チェジュ国際金管楽器コンクール』(韓国) 金管五重奏部門第1位の実力派アンサンブル！一流奏者の卓越したテクニックと洗練された音楽性をお聴き逃しなく。また、公演前日には本公演出演者を講師に招き楽器別クリニックを実施いたします。

チューバ奏者の田村さんに本公演の魅力をお聞きしました♪

グループ結成のきっかけについて

2012年に私の2学年上の東京藝術大学の先輩である鳥越さん(トロンボーン)からの呼びかけで結成いたしました。メンバーは全員東京藝術大学音楽学部金管楽器専攻生です。通常、このように室内楽のアンサンブルを作る時は同学年で組むことが多いのですが、我々は学年がバラバラなんです！学年が違ってそれぞれの意見を素直にストイックにぶつけ合うことができるので、アンサンブル(演奏)の環境はとても良かったです！また、大学の授業においてもアンサンブルのレッスンを橋本浩規先生(元NHK交響楽団トランペット奏者)にいただき、アンサンブルの極意！を教えてくださいました。この点は、後々の韓国での国際コンクール優勝にもつながる大きな経験でした！

グループ名である「メナジェリー・ブラス・クインテット」の由来について

「メナジェリー」とはあまり聞き慣れない言

葉だと思いますが、英語で「動物園・サーカス」や「風変わりな人たちの集まり」という意味なんです。我々メンバーのそれぞれの個性と豊かな音楽性を生かした演奏ができればと思いこのメナジェリーと言う言葉を使いました。

演奏中など意識していること

我々の「金管5重奏」という形態は、他の室内楽の形態(木管5重奏や弦楽カルテットなど)に比べて歴史がかなり浅いんです。なので、まずは「金管5重奏」という編成・形態を知ってもらえたらと考えています！そして、金管ならではの輝かしく！楽しく！というサウンドと、金管5重奏の魅力を知って楽しんでもらえるよう、練習の時から意識しています。

我々は言葉で伝えることができないので、楽器を通じて「音色で語る」という点を意識して常に演奏しています！

最後に宮崎の皆さまに！

「メナジェリー・ブラス・クインテット」として九州初のコンサートとなります。宮崎での私たちの演奏と、クリニックを通じて宮崎の皆さんと交流できる事を楽しみにしております！演奏会は、「金管5重奏」の魅力をお伝えできる王道と呼ばれるプログラムから、各楽器が際立つソロ曲などを用意しておりますので、お楽しみいただけたらと思います。クリニックまた、コンサート会場でお会いしましょう！



公演情報

10/12日 **メナジェリー・ブラス・クインテット**
13:30開場 / 14:00開演

会場：メディキット県民文化センター 演劇ホール
出演：鶴田麻記・重井吉彦 (トランペット)、鈴木 優 (ホルン)
高瀬新太郎 (トロンボーン)、田村優弥 (チューバ)
曲目：G. ファーナビー / 空想・おもちゃ・夢
J. チータム / ブラス・メナジェリー より ほか

クリニック情報

10/11日
13:00～15:00

会場：メディキット県民文化センター 地下練習室ほか
講師：重井吉彦 (トランペットコース)、鈴木優 (ホルンコース)
安井貴大 (トロンボーンコース)、田村優弥 (チューバコース)
鶴田麻記 (アンサンブルコース)
※詳しくは劇場HPにてご確認ください。

宮崎県出身・在住の皆さんが行う舞台芸術の公演活動を応援する「みやざきの舞台芸術」シリーズ。今年度は以下の3公演を開催します。

- I** 2025.9/14(日)、15(月・祝)
劇団ゼロQ 第33回公演
『八木助産院の食卓』
- II** 2025.10/5(日)
『響宴』
～若手演奏家による吹奏楽の集い～
- III** 2026.2/14(土)、15(日)
体感型コンサート
～オーケストラで旅する名曲の世界～

今回は、シリーズII 『響宴』の情報をお届けします！

25みやざきの舞台芸術シリーズII

響宴 KYOEN

～若手演奏家による吹奏楽の集い～

吹奏楽オリジナル作品の魅力を広く届けるため、宮崎県内で活躍する若手演奏家たちが一堂に会する、渾身の企画演奏会『響宴』。主催の「サウンドプロジェクト Mz」代表の稲垣さんと、演奏会でソリストとして出演される教山さんに、演奏会についてお話を伺いました。

サウンドプロジェクトMz

宮崎県内で活躍するミレニアム世代とZ世代の30代・20代のみの演奏家で構成された企画団体です。Mz(エムズ)は、宮崎のスペルから取った“M”と“Z”だけではなく、ミレニアム世代の“M”、そしてZ世代の“Z”を掛け合わせた意味を持っています。そんな若い世代ならではの感性とエネルギーで、宮崎に新たな風を吹き込みます。



サウンドプロジェクトMz代表 稲垣 翔太さん トロンボーンソリスト 教山 了悟さん

——まず、「サウンドプロジェクトMz」を立ち上げた経緯を教えてください。

稲 若い演奏家同士が集まって音楽を創ってみたい、という想いがきっかけです。若手が集まりやすい場所を作れば、宮崎の吹奏楽はもっと盛り上がるんじゃないかと思いました。これまで先輩方が積み上げてくださった宮崎の吹奏楽の歴史を次の世代へ引き継ぐだけでなく、新しいものを生み出すプロジェクトを立ち上げたい。そして、それを音で表現したいという想いから「サウンドプロジェクトMz」と名付けました。

教 宮崎ではこれまでにない演奏会を開きたいと思いました。キーワードは「新しい試み」「挑戦」です。

——「みやざきの舞台芸術シリーズ」に応募されたきっかけは？

稲 楽団を結成して最初の演奏会なので、運営面でも資金面でも課題が多くありました。そこで、この「みやざきの舞台芸術シリーズ」の力をお借りしようと考えたんです。おかげで、挑戦の幅が大きく広がりました。

教 母体がないところから新しい楽団を作るには、膨大なエネルギーが必要です。スタートダッシュを切るうえで、この「みやざきの舞台芸術シリーズ」から得られたエネルギーは非常に大きかったですね。当初の想定よりも大規模な演奏会を企画できました。

——今回のプログラムには、教山さんがソリストを務めるトロンボーン協奏曲「Colors」があります。

稲 彼にソリストを依頼したのは、聴きに来てく

ださる皆さんに宮崎の吹奏楽のレベルの高さを知ってほしかったからです。せっかく演奏会をやるなら、私たちだけで楽しんで終わるのではなく、「宮崎の若手だけでこれだけ素晴らしい演奏ができるんだ」ということをアピールしたいと思いました。

教 本来ならプロの奏者を招いて演奏するような難易度の高い協奏曲を、アマチュアでも演奏できることを示したかったんです。これも、若手だからこそできる「新しい試み」の一つです。

稲 「宮崎に教山了悟あり！」って見せつけてやりましょう！

——ソリストを依頼されて、どんなお気持ちでしたか。

教 これだけのメンバーがそろって演奏できる機会は滅多にありませんから、このチャンスを逃したら次はないだろう、と思いました。ただ、ソリストを引き受けたおかげで、日々の個人練習はかなりヒリついてます(笑)。ほぼ毎日練習していますが、時間があるときは23時とか、日付が変わるまでやる日もありますね。

稲 教山さんのこの熱量があつてこそ演奏できる曲です。せっかくレベルの高いメンバーが集まるのだから、宮崎ではなかなか演奏されない難易度の高い曲に挑戦したかったんです。

——「Colors」以外の曲目も、とても挑戦的な選曲ですね。

教 今回の曲目は、吹奏楽ファンなら一度は耳にしたことのある名曲ばかりです。今の時代、YouTubeなどで簡単に演奏は聴けますが、いざ実際に演奏しようと思うと、人数や難易度の問題でなかなか実現できません。そういう曲を、映像ではなく、素晴らしいホールでの生演奏で聴いてほしいです。

稲 特に、今吹奏楽に打ち込んでいる学生の皆さんに聴いてほしいですね。社会人になっても大好きな音楽を続けられるんだと感じてもら



えたら、学生の皆さんの新しい音楽の可能性が開けると思います。また、吹奏楽オリジナル曲に絞ったことで、その魅力を最大限に伝えられるプログラムになりました。吹奏楽団はポップスやジャズなど他ジャンルの曲を編曲して演奏することも多いのですが、やっぱりオリジナル曲が一番吹奏楽の魅力が詰まっていますから。——最後に、今回のプログラムを一言で表すなら？

稲 「熱」です。演奏者も曲目も、とにかく熱いです！

教 「超豪華フルコース」です。とても満足度の高いコンサートにしてみせます。ぜひお召し上がりください(笑)。

公演情報

10/5日
25みやざきの舞台芸術シリーズII
『響宴』～若手演奏家による吹奏楽の集い～
13:15開場 / 14:00開演
会場：アイザックスターンホール
出演：サウンドプロジェクトMz
稲垣翔太 (指揮・トランペット)
教山了悟 (トロンボーンソリスト)
櫻井和也 (客演指揮)

< 曲目 >
第一部 (指揮：稲垣翔太)
・華麗なる舞曲 / 作曲：C.T. スミス
・トロンボーン協奏曲「Colors」 (ソリスト：教山了悟) / 作曲：B. アッペルモント 他
第二部 (指揮：櫻井和也)
・巨人の肩にのって / 作曲：P. グレイラム 他

大地の声 天空の響き

真言宗声明とカウンターテナーによる祈りの音楽



本公演では、千二百年の歴史をもつ真言宗の声明による東洋の祈りと、シューベルトやグノーらが紡いだ「アヴェ・マリア」による西洋の祈りの音楽が、一つの舞台上で響き合います。

僧侶たちの声明による深い祈りの世界から、カウンターテナー・藤木大地の歌声とハーブの清らかな音色による西洋の祈りへ。そして、最後には東洋と西洋の祈りが一つの舞台上で重なり合う特別なコラボレーションが展開されます。

東洋と西洋が交差する、かけがえのない音楽体験をじっくり味わえる貴重な機会。公演をより楽しむために、その魅力を少しだけご紹介します。

しょうみょう 声明って何？

法要などで僧侶が経典を唱える際に、言葉にさまざまな旋律をつけた無伴奏の音楽を「声明」といいます。音楽的な技巧を凝らすことで、経典の言葉をより美しく彩り、音楽的な魅力を伴った唱えともいえます。

お寺での毎日のお勤めから年中行事として行われる法会など、さまざまな仏教儀式の中で、今日まで受け継がれてきました。西洋音楽のような音階や旋律はほとんど存在しませんが、僧侶たちが唱和する際には一定の抑揚が与えられ、独特なハーモニーを生み出します。

声明の起源

声明は、仏教・経典とともにインドから中国へ伝えられ、中国で発展し、やがては日本へと伝えられました。声明の伝統は奈良仏教に見られますが、今日唱えられている声明の源は、平安時代初期に伝承された弘法大師 空海による真言声明、伝教大師 最澄による天台声明の二流と考えられています。天台声明はゆったりとした優美な唱え、真言声明はダイナミックな力強い唱えが特徴です。また、これらの声明は、平家琵琶や謡曲、浄瑠璃などに影響を与え、「日本の音楽の原点」とも言われています。

現代に響く「声明」

長く師僧から弟子へ口伝で受け継がれてきた声明も、近年は大学で学んだり、録音や映像で触れたりできるようになり、学ぶ環境や伝え方は大きく変わりました。その中で、声明の美しい音楽性が広く評価され、ホールでの演奏や他ジャンルとのコラボレーションなど、表現の幅もぐんと広がっています。日常ではなかなか聴く機会のない声明ですが、コンサートホールで聴ける今回の公演は、声そのものの力を改めて体感できる貴重な機会です。ぜひ、その響きを存分にお楽しみください。



法蔵院住職 堤大恵

メッセージ

真言宗大覚寺派宗務総長 堤大恵 (九州真言宗教師連合法親会 会長)

宗教音楽というと難しそうなイメージですが、人々に安らぎや喜びを与え、祈りと感謝を捧げる音楽です。“日本の音楽の原点”といわれる声明の深い芸術性、日本の伝統文化を、祈りと感謝の気持ちを含めて、伝承したいと思います。

宗教音楽は本来、死者を弔うものではなく、真摯に生きる人達に向けたメッセージです。いま生きている私たちが、いかに生きていくかを奮い立たせるものでもあります。コンサートホールに魂の声を響かせ、生きている喜びや希望を、音楽を通じてより深く感じて頂きたいです。

カウンターテナー藤木大地、故郷・宮崎で魅せる特別ステージ！

宮崎市出身で「みやざき大使」としても活躍中のカウンターテナー、藤木大地さん。少年時代は合唱部で歌う楽しさに夢中になり、「歌うって楽しい！」がそのまま音楽への道につながったそうです。

2011年には思い切ってテノールからカウンターテナーに転向！ウィーン留学中に裏声の可能性を発見し、「これはやってみるしかない！」と本格的にカウンターテナーとしての道を歩み始めた藤木さん。転向後すぐに国際コンクールで高評価を受け、世界大会のファイナリストや日本音楽コンクール優勝など、すごい実績を次々と積み上げました。

2013年にはボローニャ歌劇場でヨーロッパデビュー。透明感あふれる声と表現力はもちろん、ステージに立つだけで堂々とした風格が感じられます。今回の公演の第二部では、ハーブ奏者・高野麗音さんと一緒に、西洋の祈りの

旋律を届けます。祈りの音楽として広く知られる「アヴェ・マリア」は、聖母マリアへの祈りの言葉をもとに作られた曲。同じ「アヴェ・マリア」でも作曲家によって表情が異なるのも魅力の一つです。

今回は、シューベルト、バッハ＝グノー、マスカーニの「アヴェ・マリア」などを披露。藤木さんのカウンターテナーならではの澄みきった高音が、ハーブの柔らかな響きと重なり、男性の声とは思えない透明な響きが心の奥まで届きます。まさに祈りに包まれる特別なひとときです。

さらに第3部では、千二百年の伝統を誇る日本仏教の「声明」とのコラボレーションも実現。藤木さんが世界で磨いた表現力と声明の祈りの響きが重なり合う、故郷・宮崎での特別なステージです。

どうぞ、お聴き逃しなく！！



©hiromasa

藤木大地さんからのコメント動画をチェック！

公演に向けて、藤木大地さんからのメッセージ動画が届きました。ステージへの思いや、聞きどころポイントを、藤木さん自身の声でご紹介！



こちらの公演ページからご覧ください。

公演情報

11/24日(振) 大地の声×天空の響き
～真言宗声明とカウンターテナーによる祈りの音楽
14:30開場/15:00開演

会場：演劇ホール

出演：藤木大地(カウンターテナー)、九州真言宗教師連合法親会(声明)、高野麗音(ハーブ)
料金：全席指定 一般4,000円(会員3,600円)、U25 割2,500円 ※鑑賞時25歳以下

- 第一部 声明による“祈り”
庭讃(にわのさん)、散華(さんげ)、称名禮(しょうみょうらい) ほか
- 第二部 カウンターテナーとハーブによる“祈り”
J.S. バッハ=C. グノー：アヴェ・マリア、F. シューベルト：アヴェ・マリア、P. マスカーニ：アヴェ・マリア ほか
- 第三部 コラボステージ
露地偈(ろじのげ)、理趣経善哉譜(りしゅきょうぜんざいふ)、渋谷慶一郎：BLUE

※曲目は変更になる場合があります。予めご了承ください。

プレレクチャー 参加者募集！

公演前には、声明の魅力を身近に感じられるプレレクチャーを開催します。えびの市・弘泉寺の成松昇俊名譽住職が、声明や真言宗、空海について、ユーモアを交えながらわかりやすく解説。実際に声明の体験も行い、初めての方でも聴きどころや声の響きを事前を知ることで、公演本番をより深く楽しめます。申込受付は9月10日から、先着100名様まで。二次元コードからも簡単にお申込みいただけます。どうぞ、この機会をお見逃しなく。

2025年10月13日(月・祝) 14:00～(1時間予定)

お話：弘泉寺 名譽住職 成松昇俊、法蔵院住職 堤大恵、鎮国寺住職 立部瑞真
会場：イベントホール

料金：無料(要事前申込、先着100名)

問合せ先：公益財団法人宮崎県立芸術劇場 企画広報課「声明プレレクチャー」係
TEL 0985-28-3208

参加申込はこちらから



インドネシア伝統芸能団ハナジョス

ガムランパーティー

本公演に出演いただく「ハナジョス」の活動拠点である大阪のスタジオでお話を伺いました。ハナジョスはジャワガムランとしては珍しい2人という少人数グループ。11月にはこのお二人が日南・都城へ、12月にはさらにジャワ芸能の仲間が加わり、劇場で賑やかな演奏をお届けします！



ローフィさん

ささきひろみさん

▲スタジオにて。伝統的な染布「バティック」のシャツを着用している

—普段どんな活動しているんですか？

ひろみ 演奏活動や演奏指導のほか、ガムランサークル「コンチョ・コンチョ」の運営などもしています。とにかく楽しみたい人が来る、という自由な雰囲気大切にしています。住宅街にあるスタジオなので、近隣の方々のご理解も不可欠です。地元のお祭りや敬老会に出演してガムランを知ってもらったり、ローフィは畑仕事や消防団の活動に参加するなど、地域のみなさんとのコミュニケーションが大事だと考えています。

—ローフィさんのガムランとの出会いは？

ローフィ インドネシアの私の家にはガムランのセットがあり、学校の授業でも生徒が家に来て演奏していました。だから家ではいつもガムランの音が聴こえていました。弾き始めたのは小学2年生で、意外とすぐ弾けちゃった。「あんた向いてるんじゃない？」と先生に言われたのが音楽の道を志すきっかけでした。小学生のコンクールにも出て、メダルやトロフィーをもらったりもしました。その後は芸術高校に進み、本格的にガムランを学び、ジョグジャカルタのインドネシア芸術大学に進学しました。大学在学中、王宮や国営ラジオ局で演奏する機会もありましたが、「海外で挑戦したい」という気持ちも抱いていたんです。そんな時、フィンランドのアジアフェスティバルに出演し「ガムランは世界でも通用する」と実感しました。

—ささきひろみさんのガムランとの出会いは？

ひろみ 小さい頃からピアノを習っていて、神戸の大学でも音楽を

専攻しました。民族音楽学の授業でガムランの音に出会い、「この音楽はなんだ？」と興味を持って調べ、春休みに短期留学でジャワに行き先生のもとで住み込みで練習したんです。そこで「もっと学びたい」と思い、卒業後に2年間留学しました。インドネシア芸術大学では、優秀な学生は夜の演奏会に忙しく、大学の授業に出てこないことも多かった。しかしローフィは夜の演奏会、朝の大学と、どちらも真面目に参加している学生でした。ローフィと意気投合して授業後のサークル活動のようなノリで大学のスタジオにこもり、一緒に練習したり、日本のケータイ着メロを作曲録音し、投稿していました。その中でグループ名を決めたいねという話になり、日本語の「花」とジャワ語の「よっしゃ!」「ファイト一発!」みたいな意味の「Joss」を掛け合わせた「ハナジョス」というグループを結成しました。

—そしてそのまま日本に？

ひろみ はい。私の留学の期限や、ローフィの海外活動の夢も重なり、日本に来ることになりました。

—地元ジャワでは、ガムランやワヤン*はどんな時に演奏されるんですか？

ローフィ 子どもの誕生や結婚式、村のお祭りや国の記念日、そしてお葬式と、さまざまな場で演奏されます。豊作祈願や疫病退散にも用いられ、コロナの時も祈りを込めて演奏が行われました。

—影絵人形を動かすダラン（人形遣い）には誰でもなれるんですか？

ひろみ なかなかできません。人形さばきや声の質、話の面白さなど、総合的に人を惹きつける力が必要です。ダランの家系に生まれた人も、ワヤンが大好きでダランを目指す人も、特別な力を得るためでしょうか、川に入って祈ったり、断食をしたりと、自らに修行を課すこともあります。

—ローフィさんはどうやってダランに？

ローフィ 私はお菓子屋の子でしたが、幼い頃からワヤンが好きで、厚紙で自作していました。高校の頃、職人やダランの家系の人に出会い、「もったいないから皮で作いな」と言われて、少しずつ水牛皮を買って挑戦しました。有名なダランに演奏で呼ばれたり、友人がワヤンをする時にはサポートするなど、人との関わりの中で自然と道が開けていきました。今使っている人形の多くは職人さん作ですが、一部簡単なものは自分で作りました。

* 中部ジャワでは、ワヤン・クリ(影絵芝居)のことをワヤンと略することが多い。

—今回上演する「おいしそうなピモ」とは？

ひろみ ジャワでも人気のキャラクター、ピモが鬼を退治する物語です。病気や災害を鬼に見立て、平和を願って演じられます。深刻な場面もありますが、道化が笑いを取ったりするので、伝統芸能だからと肩肘張らずに楽しめます。

—11月には日南と都城で無料公演もありますね。

ひろみ 日南では「アルジュノの鬼退治」。アルジュノはピモと並ぶ人気のヒーローで、天界で暴れる鬼をやっつけ、神から妻を授かります。「おいしそうなピモ」と同様、インドの神話「マハーバーラタ」の物語の一部で、どちらもよく上演されるメジャーな演目です。都城では屋外なので影絵ではなく、人形芝居「ワヤン・カンチル」を上演します。世界一小さな鹿、ジャワ豆鹿のカンチルが、知恵で

強者を出し抜く民話です。「因幡の白うさぎ」が海を渡って伝わったんじゃないか？というぐらいよく似ているんですよ。「ワヤン・カンチル」の歴史はかなり古いようですが、ワヤン人形作家のルジャールさん(12月に出演するアナント・ウィチャクソノさんのおじいさんです!)が、主人公のカンチルをはじめ、さまざまな動物のワヤン人形を作り、現代に復活させました。今では子どもたちに大人気のワヤンです。

—最後に一言お願いします。

ローフィ 「今日楽しかったことは持って帰って、楽しくなかったことはここに置いて帰ってくださいね。これはワヤンのセリフにもある言葉です。伝統芸能だからと一生懸命観ると疲れちゃうから、気軽に楽しんでもらえたら嬉しいです。

ガムラン紹介コーナー



「ガムラン」は、「ガム=叩く」という言葉に由来します！

ささきひろみさん



グンデル

下に筒があり、音が長く柔らかく響く。



楽譜

ドレミではなく、楽譜は数字で表される。この数字からさらに読み取って演奏する必要がある。



ルバス

メロディを担当する2弦の楽器。共鳴胴には水牛皮の腸を使っている。



サロン

キラキラした音色が特徴。青銅の鍵盤を木のハンマーで叩く。



クンタン

指揮者のように演奏をリードする太鼓。叩き方でいろんな音色を出せる。



ゴン

物語の一番最後に鳴る低〜い音



ワヤン・クリ(影絵人形)

水牛皮から作った人形。ダラン(人形遣い)一人で操り、語りも担当 ※ワヤン・クリは影絵芝居、またそれに使う人形のことを指す。



ローフィさん

ワヤンの人形さばきも見どころですが、実は足も使って音を出したり、体全部使って表現しています！

公演情報

12/14

インドネシア伝統芸能団ハナジョス
ガムラン・パーティー!
13:30開場 / 14:00開演

本番直前
ワークショップも
開催!

会場：イベントホール
出演：インドネシア伝統芸能団ハナジョス (ローフィ、ささきひろみ)
岩本象一、東山真奈美、ナンン・アナント・ウィチャクソノ
西岡美緒

関連イベント

11/1 日南公演

11/2 都城公演

※詳細はHPへ





劇場主催公演をご紹介します

mrt ラジオ

晶子と県劇

『知っ得! なっつく!』

をご存じですか?

毎週土曜あさ7:45から、ナビゲーター前田晶子さんが出演者の声や公演の魅力などをわかりやすくお届けしています。次回の予告や聞き逃し配信については、QRコードから番組HPへ。ぜひ耳を傾けてみてください。



番組HPはこちら▶



メディキット県民文化センター 自主事業公演チケット情報 2025年・2026年
(宮崎県立芸術劇場)

10/5(日) 14:00開演 アイザックスタンホール	‘25みやざきの舞台芸術シリーズⅡ 「饗宴 ～若手演奏家による、吹奏楽の集い。～」 【出演】サウンドプロジェクトMz(吹奏楽団)、櫻井 和也(客演 指揮)、稲垣 翔太(指揮) 教山 了悟(トロンボーンソリスト) 全席自由 一般 1,000円(当日 1,500円) 学生 800円(当日 1,000円) ※学生:大学生、専門学生以下 ※未就学児入場不可	チケット 発売中
10/12(日) 14:00開演 演劇ホール	メナジェリー・プラス・クインテット 【出演】鶴田 麻記(トランペット)、重井 吉彦(トランペット)、鈴木 優(ホルン)、 高瀬 新太郎(トロンボーン)、田村 優弥(チューバ) 全席自由 一般 2,000円(1,800円) U25割 1,000円	チケット 発売中
11/8(土)・9(日) ※各回75分程度(予定) アイザックスタンホール	宮崎県立芸術劇場 開館30周年記念プログラム パイプオルガン見学・体験会「オルガンふしぎ発見！」 【司会・進行】伊豆 謡子、前田 晶子 【オルガン演奏・解説】稲森 愛、北川 倫代 ※ご応募の受付は締め切りました。	受付終了
11/24(月・振) 15:00開演 演劇ホール	大地の声x天空の響き ～真言宗声明とカウンターテナーによる祈りの音楽 【出演】九州真言宗教師連合法親会(声明)、藤木 大地(カウンターテナー)、高野 麗音(ハープ) 全席指定 一般 4,000円(3,600円) U25割 2,000円	チケット 発売中
12/6(土) 11:00開演 串間市文化会館 大ホール舞台上	はじめてのクラシック♪ in くしま ～フルートデュオ～ 【出演】熊谷 愛香(フルート)、壽山 智美(フルート)、高場 涼子(ピアノ伴奏) 大人 500円 子ども(未就学児)無料	0歳から 入場OK! ＜事前申込制＞ 10月15日(水) 受付開始予定
12/14(日) 14:00開演 イベントホール	宮崎県立芸術劇場 開館30周年記念プログラム インドネシア伝統芸能団ハナジョス ガムラン・パーティー! 【出演】インドネシア伝統芸能団ハナジョス(ローフィ ささき ひるみ) 岩本 象一、東山 真奈美、ナン・アナン・ウィチャクソノ、西岡 美緒 全席自由 一般 1,000円 U25割 500円 3歳以下無料	0歳から 入場OK! チケット 発売中
12/21(日) 14:00開演 演劇ホール	TRES 沖仁x大萩康司x小沼ようすけ 【出演】沖仁(フラメンコ・ギター)、大萩康司(クラシック・ギター)、小沼ようすけ(ジャズ・ギター) 全席指定 一般 4,000円(3,600円) U25割 2,000円 ベア割 7,000円(6,300円)※前売りのみ ※未就学児入場不可	チケット 発売中
1/17(土)・18(日) 14:00開演 演劇ホール	『飛び立つ前に』 【出演】橋爪 功、若村 麻由美、奥貫 薫、前田 敦子、岡本 圭人、剣 幸 全席指定 S席:7,000円(6,300円) A席:5,000円(4,500円) B席:4,000円(3,600円) U25割:各席種半額 ※未就学児入場不可	【会員発売】 11月2日(日) 午前10時～ 【一般発売】 11月9日(日) 午前10時～

Attention(ご注意)

◎記載情報は変更になる場合があります。◎()内はくれっしえんど倶楽部会員価格です。◎U25割は鑑賞時25歳以下が対象。その他の割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。
◎当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増になります。※一部公演除く◎託児サービス(有料・事前申込要)をご利用いただけます。※一部公演除く



2016年にはじまった「アートな学び舎」。演劇やダンスに興味はあるけれどきっかけがない、ちょっとやってみたい、そういう方の第一歩となるよう、毎年さまざまなワークショップ・講座を実施してきました。10年目の今年は、一般公募のオーディションで選ばれた参加者らとともに、約2週間という短い期間で舞台をひとつつくりあげるといった企画を実施。8月31日(日)に、シェイクスピアの傑作喜劇『十二夜』を題材にした『あらかるとの十二夜』を上演しました。

台となった今回、台本の覚え方から台詞の発し方、動きなど、ひとつひとつ学びながら、稽古を重ねました。また、作品が書かれた当時のことや、シェイクスピアなどについて細かく議論を重ねながら作品理解を深め、生まれた『あらかるとの十二夜』。“十二夜”という言葉に込められた祝祭的な雰囲気漂う、生き生きとした舞台をお届けしました。

出演者はじめご覧になられた方々にとって、舞台芸術の世界への興味・関心がより高まるきっかけとなっていたらと、切に願います。

十二夜が過ぎ、それまでの非日常的な祝いの日々が終わり、少し寂寥感が芽生えます。しかし、またいざれ十二夜はやってきます。



出演者の半数が初舞



お問合せ



宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

〒880-8557 宮崎市船塚3-210
https://miyazaki-ac.jp/

TEL.0985-28-3208 FAX.0985-20-6670

随時更新中!「フォロー」と「いいね!」お待ちしています